

音楽科学習指導案

学 級 : 2 年 2 組
男子 15 人 女子 16 人 計 31 人
場 所 : 音 楽 室
指 導 者 : 教 諭 神 園 律 子

1 題材名 「混声合唱の楽しみ」

教材 混声三部合唱「今日は君の Birthday」 若松 歆 作詞・作曲
混声三部合唱「旅立ちの時」～Asian Dream Song～
ドリアン助川作詞 久石 譲作曲 富澤 裕編曲

2 題材について

(1) 教材観

「今日は君の Birthday」は、昨年に引き続き、2年生の合唱コンクールの課題曲に選定した。歌詞やメロディが印象に残り、生徒にも人気が高い。時間をかけて意欲的に取り組むことができる楽曲である。曲の中には様々な声部の重なり方が盛り込まれているので、各パートの役割に気付き表現できたり、全体の構成や強弱記号でもそれぞれの部分の工夫を生かしたりすることができる。また、歌詞には作詞者の思いが一つ一つの言葉で丁寧に語りかけられ、訴えてくるものがあり変化する思いをふさわしい音色で表現することができる手ごたえのある楽曲でもある。

「旅立ちの時」～Asian Dream Song～は、本学級が選んだ自由曲であり、長野パラリンピック冬季競技大会のテーマソングである。障害者のための大会のテーマソングではあるが、健常者も障害者も生きているすべての人に価値があり、かけがえのない存在で、自分を大切に夢を持って自分だけの花を咲かせて欲しいというメッセージが込められている。楽曲構成が簡単ではあるが、歌詞・メロディともに美しく、しっかりした発声と美しい日本語の発音の定着を図ることで音楽表現が深まる楽曲である。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、歌うことが好きで音楽の学習活動に対して前向きである。昨年、この学年の合唱コンクールの取組では、変声期途中の生徒が多い中でも臆することなく、一生懸命取り組む姿が見られた。1学期の「夢の世界」では、進級し声域が安定する中で、お互いのハーモニーがうまくそろった場面や、曲の盛り上がりの表現の工夫が見られるようになった。お互いの声を聴き合い、どんな合唱をつくり上げていきたいか思考・判断し、話し合いながらみんなでつくり上げる活動ができつつある。

(3) 指導観

2年生のどの学級もクラスのまとまりがあり、学級で競い合う行事では、特に一致団結する姿が見られる。合唱においても、特に意欲的な生徒を中心に取り組んでいる。しかし、音楽経験の少ない生徒が多く、ピアノを弾ける生徒も少ない。生徒一人一人の基本的な技術の向上やリーダーの育成が課題である。そこで、昨年から小グループでの音楽活動の実践や楽曲イメージマップの活用で音楽に関する共通事項の定着を図る学習に取り組んできた。2学期は合唱コンクールという大きな行事を通して、大きく飛躍できる時である。2曲の楽曲を通して、歌詞の内容や曲想、声部の役割や全体の響きに関心を持ち、音色、旋律、強弱、テクスチャ、構成を知覚し、それらが生み出す特質や雰囲気を感じたことをクラスで共有し、どのように音楽表現を工夫していくかを話し合いながら、全員でつくり上げる力を更に高めたい。

3 題材の指導目標

- 声部の役割と全体の響きの関わりに興味を持たせ、意欲的に歌唱活動に取り組ませる。
- 歌詞の内容や曲想の役割を感じ、その曲にふさわしい音楽表現を工夫させる。

- 音色, リズム, 速度, 旋律, テクスチャ, 強弱などの音楽を形づくっている要素を知覚し, それらを生かした曲にふさわしい音楽表現の技能を身に付けさせる。

4 題材の指導計画

(1) 評価規準

ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能	エ 鑑賞の能力
① 歌詞の内容, 曲想に関心を持っている。 ② 声部の役割と全体の響きとの関わりに関心を持ち, 音楽表現を工夫して歌う学習に主体的に取り組もうとしている。	① 旋律の特徴, 強弱の変化などを知覚し, それらが生み出すよさや面白さを感じ, 表現している。 ② どのように表現するか思いや意図を持って, 歌詞の内容, 曲想を生かした表現を工夫している。 ③ 声部の役割と全体の響きとの関わりを理解して音楽表現を工夫し, どのように表現するか思いや意図を持っている。	① 歌詞の内容や曲想, 声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした, 曲にふさわしい音楽表現をするために必要な技術を身に付けて歌っている。	/

(2) 指導と評価の計画

題材名	時	指導内容	評価規準
混声合唱の楽しみ	1	○ 「今日は君の Birthday」「旅立ちの時」を聴き, 歌詞の内容や曲想について感じたことを楽曲のイメージマップに書かせ, 曲のイメージをつかませる。	アー①
	2 3	○ 音程・リズムをつかむためのパート練習を行う。 ○ 他のパートを意識させ, パートの役割を考えさせて歌わせる。	アー②
	4	○ 曲の構成や速さ, 強弱の変化を生かした表現を工夫させる。	イー①
	5 (本時) 6	○ 歌詞の内容や, 曲想を生かした表現の工夫をさせる。	イー② イー③ ウー①
	7	○ 歌詞や曲想を味わい, 声部の役割と全体の響きとの関わりを生かした音楽表現を追及させる。	ウー①

5 本時の判断基準の設定 (5/7)

評価規準	「音楽表現の創意工夫」 ○ この曲をどのように表現するか思いや意図を持って, 歌詞の内容, 曲想を生かした表現を工夫している。
評価の場面	○ 自分たちの演奏(録音)聴いて, それぞれの視点で, 工夫したいところをまとめている場面 ○ グループ活動のときに, 意見を出し合い, 練習を練り上げている場面
評価の対象	○ アナリーゼカードの記述 ○ 練習活動中の観察
判断の要素	○ 旋律の流れや動きにあったフレーズ ○ 歌詞にあった音色の変化 ○ 強弱の変化

尺度	判断基準
B	<ul style="list-style-type: none"> ○ 大事にしたい歌詞を選び、どのように歌いたい意図を持って、表現することができる。 ○ 強弱の変化に気付き、どのように歌いたい意図を持って、表現することができる。 ○ 旋律の流れの変化に気付き、意図を持って、表現することができる。
	<p>【予想される生徒の表現例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「そっと」を曲の出だしなので大切に、優しく歌いたい。 ・ <i>P</i>に始まり、<i>mp</i>、<i>mf</i>そして<i>f</i>という強弱の変化を曲に込めた思いにつなげて歌いたい。 ・ 音が上昇しているので盛り上げたい。
A	<ul style="list-style-type: none"> ○ 複数の視点に気付き、その関わりについて意図を述べ、音楽表現をしようとしている。

6 本時の実際（5/7）

(1) 主題名 「曲想を生かした表現の工夫」

(2) 学習目標

- 混声三部の響きに関心を持って、意欲的に歌唱活動に取り組むことができる。
- 歌詞の内容や、曲の構成・曲想の変化を理解して、それらを生かした曲にふさわしい歌唱表現を工夫しようすることができる。
- 音色、リズム、速度、旋律、強弱などの音楽を形づくっている要素を理解し、それらを生かした表現の技能を身に付けることができる。

(3) 研究仮説に沿った授業設計の視点

ア 学習課題設定の工夫

- (ア) 学習課題の設定につながる楽曲イメージマップの活用を行う。
- (イ) 旋律の特徴、歌詞の内容、強弱の変化のそれぞれの視点で学習課題を設定させる。

イ 発問の工夫

楽曲を分析しながら、どんな思いを持ってどのように表現したいか意図を引き出す発問を行う。

(4) 授業の展開

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
導入	8分	一斉	1 発声練習をする。 2 「今日は君の Birthday」を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体をほぐし、歌う準備をさせる。 ・ 前時を想起させながらのびのびと歌わせ、学習する雰囲気をつくらせる。 ・ 演奏を録音する。 	
	2分	一斉	3 本時の目標を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 歌詞の内容や曲想を生かした表現を工夫して、パート練習の成果を発表しよう。 </div> 4 楽曲イメージマップの視点を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の目標を理解させる。 ・ それぞれの視点の気づきを発表させ、聴く視点を明確にさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">視点アー（ア）</div> 楽曲イメージマップを見ながら、曲想の工夫の視点を確認する。

発問

過程	時間	形態	学習活動	指導上の留意点	仮説実証の視点
展 開	11分	グループ	5 自分たちの録音を聴きながら、各パートで表現の工夫を出し合う。 ○ 歌詞の内容 ○ 強弱の変化 ○ 旋律の特徴	<ul style="list-style-type: none"> どのように表現したいかを具体的にアナリーゼカードに記入させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">前半と後半の歌詞の違いを感じて、大事にしたい歌詞をどのように表現したいか考えてみよう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">強弱の変化をどのように表現したいか考えてみよう。</div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">旋律の流れの変化をどのように歌いたいと考えてみよう。</div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">視点アー (イ)</div> それぞれの視点（歌詞の内容、強弱の変化、旋律の特徴）の中で、どこをどのように歌いたいかを記入させる。
	15分		6 課題を設定し、パートごとに練習する。	<ul style="list-style-type: none"> 練習の中心になる部分を確認させ、意見を出させながら表現の工夫をさせる。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">視点イ</div> アナリーゼカードに書かれた内容を実際に表現するために生徒の意図を引き出す発問をする。
	9分	一斉	7 パートごとにどのような意図を持って練習したか発表し、演奏する。	<ul style="list-style-type: none"> パートリーダーに工夫した部分を発表させ、演奏させる。 	
終末	5分	一斉	8 本時の練習したところをお互い共有して歌う。 9 次時の予告を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 演奏を録音する。 課題の変容を確認しながら、本時のまとめをさせる。 本時のまとめを次時への意欲につなげさせる。 	

(5) 検証の方法

ア 学習課題の工夫

(7) どの視点で学習課題を設定するか説明を聞き、自分たちの録音を聴く姿により確認する。

(4) 自分たちの録音を聴いて、それぞれの視点で工夫したいところをアナリーゼカードに記述している内容で確認する。

イ 発問の工夫

グループ活動において、どのように歌いたいかという意図を出し合う場面や練習している姿で観察する。